

## ふるさと山梨で加速する、次世代インフラの挑戦

山梨県では、革新的な事業に挑戦するスタートアップや起業家を支援する「[TRY!YAMANASHI!実証実験サポート事業](#)」を進めています。今回は、エネルギーと水を自給自足でまかなう「オフグリッド」技術の開発や実装などに取り組むスタートアップ、[INNFR A \(インフラ\) 株式会社](#)の岩崎友哉氏にお話を伺いました。

### 運命を感じた挑戦の原点

山梨県出身の岩崎氏は、大学進学を機に上京し、一橋大学大学院で「環境保全と経済活動をどう両立させるか」という問いに向き合ってきました。転機は、大学 3 年生のときに偶然目にした一つの記事。地元・北杜市で、エネルギーと水を自給自足する「オフグリッド」技術の実証実験が始まるという内容でした。

「既存の大規模集中型のインフラにつながらない『オフグリッド』の概念に初めて出会って、すごくワクワクしたんです」。さらに、「自分の地元でそんな最先端の試みが始まるというところに、運命的なものを感じた」と振り返ります。新卒採用の予定がない中でも諦めずにアプローチを続け、インターンを経て正式に INNFR A へ入社。いまは、「稼ぐ防災」をコンセプトに、防災拠点向けコンテナ型水循環システムの防災道の駅への実装に挑戦しています。



岩崎友哉氏

### “挑戦の背中を押す” 山梨の伴走

「山梨は、新しい事業を始めるには本当に相性のいい場所だと思います」。土地が見つかりやすく東京との往来もしやすい—その物理的な余白に加え、行政が寄り添い、補助金から関係者調整、制度面まで一体で支える姿勢が、挑戦のハードルを下げていると岩崎氏は語ります。

「山梨は、挑戦と近い。未来と近い。」岩崎氏の言葉は、それを静かに証明してくれています。これから新しい一歩を踏み出す人にとって、山梨は最初の舞台として相応しい場所なのかもしれません。

詳しい記事は  
こちらから→

HIGH  
QUALITY  
YAMANASHI



岩崎 友哉 (いわさ  
き ゆうや) 氏  
INNFR A 株式会社

2000 年生まれ、山梨県北杜市出身。市内の小中高校を経て一橋大学経済学部へ進学し、大学院では環境経済学や経済人類学を学ぶ。大学 3 年の時、地元でオフグリッド実証を進める INNFR A の記事に強く惹かれ、翌年インターンとして参画。2025 年には同社の社員第一号として新卒で入社し、現在は東京と山梨を行き来しながら、道の駅富士川でのフェーズフリー型の水供給などオフグリッド技術の社会実装に挑んでいる。

山梨県の様々な魅力をお届けする  
県公式のブランド情報発信サイト  
『ハイクオリティやまなし』はこちら  
<https://hq.pref.yamanashi.jp>



YAMANASHI

【主担当課】山梨県 新価値・地域創造推進局 新事業チャレンジ推進課

(TEL 055-223-1514)

【発行】山梨県地域ブランド推進 CFT (クロス・ファンクショナル・チーム ※)  
(事務局) 山梨県 高度政策推進局 地域ブランドグループ TEL 055-223-1584

※ 組織の枠を超えた部局横断チームを編成し、相乗効果や新たな価値を生み出すブランドプロモーションに取り組んでいます